



令和 8 年（2026 年）2 月 17 日 公表
 令和 7 年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

マイワシ（対馬暖流系群）

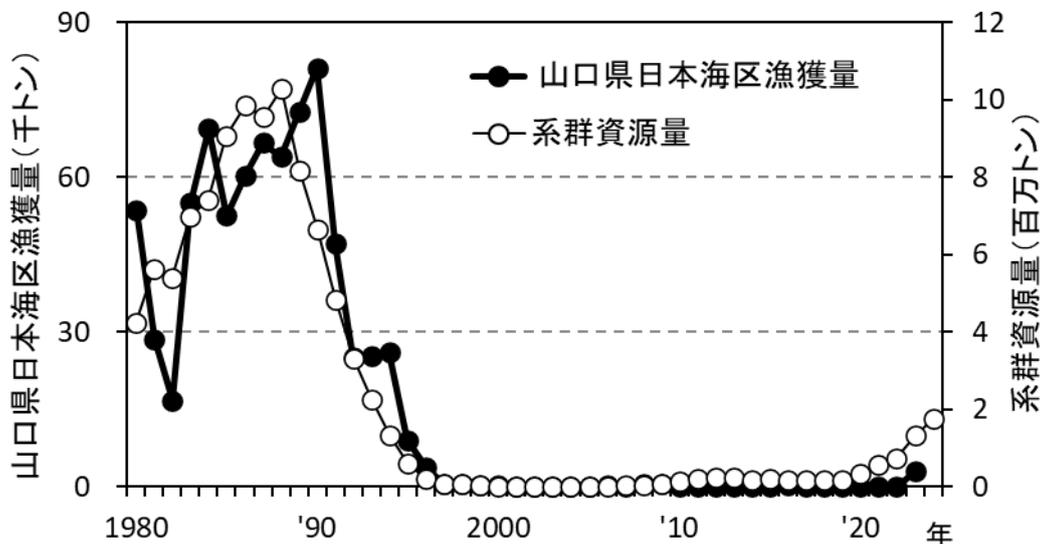


図 山口県日本海区マイワシ漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報）及び対馬暖流系群マイワシ資源量（（国研）水産研究・教育機構 資源評価報告書）の推移

【漁業】1980年代から1990年代前半には、まき網や定置網で大・中羽いわし（1歳魚以上）がまとまって漁獲されていた。しかし近年は、まき網による漁獲量が激減し、棒受網・抄網によるヒラゴ（当歳魚）の漁獲が主体となっている。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は1990年の81,286トンをピークとしてその後急速に減少した。1997年以降は1千トン以下となり、さらに2010年以降は300トン以下に減少した。2023年には急増し、2,998トンとなった。

【資源状態】資源量は1970年代から増加し、1988年には1千万トンに達したが、1990年代に急減し、2001～2003年には過去最低の5千トン前後になった。2004年以降は増加し、2010年に10万トンを超えた後、2019年まで20万トン前後で推移した。2020年より増加傾向にあり、2024年は175.1万トンであった。

2024年の親魚量（SB）は最大持続生産量MSYを実現する親魚量（SB_{msy}：目標管理基準値）を下回った。また、2024年の漁獲圧（F）はMSYを実現する漁獲圧（F_{msy}）を下回った。親魚量の動向は増加と判断された。

2024年漁獲量 (万トン)	MSY (万トン)	2024年親魚量 (万トン)	目標管理基準値 (万トン)	限界管理基準値 (万トン)	禁漁水準 (万トン)
14.4	39.2	72.9	108.9	45.4	6.5